

科目分類	助産学実践科目 実践・関連		開講時期	1年 前期	
授業科目	周産期の診断と技術Ⅲ（産褥・新生児・乳児期）				
選択／必修	必修	単位数（時間数）	1単位	30時間	授業形態 演習
担当教員	野々山 未希子 ・ 窪田 裕子 ・ 田中 真穂				
メールアドレス	m-nonoyama@tsuruga-nu.ac.jp(野々山) y-kubota@tsuruga-nu.ac.jp(窪田) m-tanaka@tsuruga-nu.ac.jp(田中)	オフィスアワー		随時相談に応じます。 事前にメール連絡してください	

到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1) 褥婦と新生児、その家族への助産過程に必要な知識について説明できる。 2) 褥婦と新生児、その家族への助産過程に必要な情報項目について説明できる。 3) 褥婦と新生児、その家族への助産過程に必要な情報を収集するための助産技術について説明できる。 4) 産褥・新生児期の正常経過とその逸脱の判断に必要な知識・情報を分析・解釈・統合し、診断する方法について説明できる。 5) 助産診断に基づき、計画・立案できる。 6) 褥婦と新生児、育児期の母子とその家族に必要な助産技術について説明できる。 7) 新生児健診および乳児健診の目的と診査項目について説明できる。
授業概要	褥婦・新生児・乳児の健康状態と産褥～地域・家庭での育児期における経過の助産診断、褥婦・新生児・乳児の援助技術を理解し、適切な助産診断と助産技術を実践できる基礎的能力を養う。
授業内容	<p>第1回 産褥期の身体的変化と助産診断（窪田） 産褥経過の診断(母体の健康度、退行性変化、進行性変化 正常からの逸脱(マイナートラブル、異常)</p> <p>第2回 産褥期の支援（窪田） 退行性変化への支援、進行性変化への支援、日常生活適応への支援 心理的・社会的側面への支援、産後の家族計画、家庭・社会生活復帰への支援 育児行動取得への支援、家族への支援</p> <p>第3回 産褥期の心理的・社会的変化と助産診断（窪田） 健康生活への適応 (心理状態:出産体験の受容、マタニティーブルーズ、日常生活行動) 児の受容・愛着、母親役割・父親役割、家族関係、育児生活への対処行動、 地域・社会からの支援</p> <p>第4回 新生児・乳児の生理的变化と新生児・乳児期の助産診断（窪田） 新生児期～3か月まで 健康状態(妊娠・分娩経過の影響、子宮外生活への適応)</p> <p>第5回 新生児・乳児の生理的变化と新生児・乳児期の助産診断（窪田） 新生児期～3か月まで 成長・発達(身体の発育・成熟状態、精神・運動発達)、栄養・養護</p>

	<p>第 6 回 新生児・乳児の生理的変化と新生児・乳児期の助産診断 (窪田) 新生児期～3 か月まで 家族・適応過程(母子関係・父子関係・家族)、生活環境(入院中、退院後、育児期)</p> <p>第 7 回 母乳育児支援 (窪田) 出生後から入院中</p> <p>第 8 回 母乳育児支援 (窪田) 退院後から卒乳まで、家庭・地域での母乳育児支援</p> <p>第 9 回 事例を用いた助産過程の展開 (窪田・野々山・田中) 産褥期新生児の事例の説明、 助産診断に基づいて情報収集、アセスメント</p> <p>第 10 回 事例を用いた助産過程の展開 (窪田・野々山・田中) 産褥期新生児の助産診断</p> <p>第 11 回 事例を用いた助産過程の展開 (窪田・野々山・田中) 助産計画の立案</p> <p>第 12 回 事例を用いた助産過程の展開 (窪田・野々山・田中) 保健指導の立案</p> <p>第 13 回 事例を用いた助産過程の展開 (窪田・野々山・田中) 助産ケアの実施、評価</p> <p>第 14 回 褥婦・新生児に必要な助産ケアと基本的な技術:演習 産褥期に必要な助産技術 (窪田・野々山・田中)</p> <p>第 15 回 褥婦・新生児に必要な助産ケアと基本的な技術:演習 1 か月健康診査、3・4 か月乳幼児健康診査 (窪田・野々山・田中)</p>
<p>教科書・ 参考書等</p>	<p>教科書：助産学講座 7 助産診断・技術学Ⅱ 分娩期・産褥期 第 6 版, 医学書院 助産学講座 8 助産診断・技術学Ⅱ 新生児期・乳幼児期 第 6 版, 医学書院 日本産婦人科学会「産婦人科診療ガイドライン 産科編 2020」 仁志田博司 「新生児学入門」第 5 版、医学書院 助産師基礎教育テキスト 2023 年度版 第 6 巻 産褥期のケア, 新生児期・ 乳幼児期のケア 日本看護協会出版</p> <p>参考書：荒木勤, 最新産科学 正常編, 文光堂 荒木勤, 最新産科学 異常編, 文光堂 北川真理子他, 今日の助産, 南江堂 太田操, ウェルネスに基づく母性看護過程, 医歯薬出版株式会社 平澤美恵子, 村上睦子, 写真でわかる助産技術, インターメディカ 我部山キヨ子・大石時子, 助産師のためのフィジカルイグザミネーション 第 2 版, 医学書院</p> <p>*授業内で適宜紹介する。</p>
<p>成績評価 基準・方法</p>	<p>課題 20% 筆記試験 70% 演習参加状況・態度 10%</p>
<p>履修要件</p>	<p>なし</p>
<p>留意事項・ その他</p>	<p>看護基礎教育で学んだ知識が基本になっています。<u>事前学習</u>を行い、授業に臨んで下さい。 本科目を修得していないと、助産学実習ⅠⅡⅢⅣは履修できません。 *当該期間に 15 時間以上の予習・復習が必要です。</p>

